

残暑お見舞い申し上げます

学園創立120周年

全学と地域の参加と共同で

教育実践と学校づくりについて学び合う

第27次(通算61次)旭丘全学教育研究集会・

第1部(基調教研)に是非ご参加ください!

○新型コロナウイルス感染拡大の状況にかんがみ、1日のみの開催とし、基調報告とともに教育づくり・学校づくりの課題とかかわる二つの基調講演を位置づけます。

○コロナ問題に対する「全学統一方針」の下、引き続き「全学統一方針」に基づき、十全な感染予防・拡大防止対策を講じつつ、この教研を節目に、諸々の教育活動の目的と内容を実現させ、生徒の学びと進路の保障を図る教育づくり・学校づくりを前進させます。

【とき】2022年8月27日(土)14:00~17:00

【ところ】旭丘高校城内キャンパス・ホール

※当日は生徒募集第2回サマーセミナーが午前8時30分より第1校地・第2校地で開かれています。

【プログラム】※13:30に受付(ホワイエ)を開始します。

教研の基調 14:00~14:10

学習講座1 14:10~15:10(講演) 15:10~15:35(質疑)

「無償教育・私学助成運動と公営私学の展望」

講師：三輪定宣氏

(新名学園私学教育研究所長・千葉大学名誉教授)

学習講座2 15:35~16:35(講演) 16:35~17:00(質疑)

「いま 子ども・青年の発達の課題をどうとらえるか」

講師：福井雅英氏(滋賀県立大学)

★教研終了後全学各パート代表による制服検討委員会が開かれます。

【主催】旭丘高校全学教育研究集会実行委員会

【事務局】旭丘高校「守る会」・六者懇談会・旭丘高校生徒会

【連絡先】〒250-0014 小田原市城内1-13

旭丘高校内 六者懇談会事務局

TEL: 0465-23-3787, FAX: 0465-23-5944,

e-mail: niina-j1@amber.plala.or.jp

10月1日(土) 9:30~11:30

学園創立120周年記念式典

※招待状が完成し、来賓への発送作業進む。

※創立120周年記念・神奈川新聞特集記事は9月26日(月)に掲載。

いま 子ども・青年の発達の課題をどうとらえるか

福井雅英(滋賀県立大学・非常勤)

1. 最近の気になる出来事から一子どもの苦悩を深くつかむ

- 「死刑になりたかった」— 8/20 渋谷路上殺人未遂事件：埼玉中学三年生女子 15歳
 - ・中1冬頃から不登校。週1~2回保健室登校。母親と弟を殺そうと予行練習で
 - ・「母親が怒ると不機嫌になりそれが自分にもうつってきていると感じてイヤ」
 - ・「塾に行きたくなかった。当日はもう頑張れないと思い、電車に乗った」
 - ・「中学校に入って、部活を辞めたり、次第に不登校になっていった」
 - ・「最近では来年の受験に向けて、私が勉強をしっかりとやるように問い詰めたり、学校に行っていないことを少し責めたりしていた」。(母)
 - ・受験や不登校について、指摘していた。「厳しく言ったときも言い返すことなく、淡々と返事をしていました。私に対する不満を言えずに、いつのまにか、ためこんでいたのかもしれない」(母)

○北海道・実業高校三年生男子。8/17 二学期始業式の日自室で自死。

- ・おとなしい子、友人いない、勉強が出来ない。
- ・担任は気にかけていて、放課後勉強なども支援—支援?プレッシャー?
- ・就活解禁が近づく—社会状況の厳しさをどう認識し、どう向き合うか
- ・「何をどう気にかけるか、どう支援すれば」：本人が求めていたものは何か

2. 二学期はじめの子どもの重圧感を生み出す問題を構造的に考える

- 自分の人生への絶望感—環境条件と応答し、働きかけつつ生きる見通しが無い
 - ・生活史のなかで、自分の生活の主人公になる—生活主体になる経験が薄い
- 生活感情の解放されるところがない—不安や不満が出せて受け止められるところ
 - ・学級・学校が居場所(解放と安心の時空)になっているか

3. 本当の自分が出せない—友人関係が見えない

- 教職受講学生の感想から 【別紙資料】
 - ・書くこと—自分を振り返って表現する
 - ・読み合うこと—支え合う関係の形成：生活綴方に学ぶ
- 競争と評価の社会的根深さ
 - ・向上への競争から、脱落に追われる競争へ：親の世代の生活が維持できない強迫

4. 子ども研究と教育実践

- 子どもの生活・学習状況をまるごとつかむ学校
- 主体形成：生活主体、民主的な国家・社会の形成者として—

5. 若者の主体的自立に向けた伴走型支援